

◎ 「高校入試」 前半戦終了！

平成 31 年度 公立高等学校入学者選抜 推薦入学者志願状況 (全日程 1)

学校名	学科名	募集 定員	一般推薦		特別推薦	
			正員	定員外	正員	定員外
長崎東	普通・国際	280	24	37	5	5
長崎西	普通	200	12	17	5	5
	普通 (理系)	80	4	6		
	計	280	16	23		
長崎南	普通	240	36	39	5	4
長崎北	普通	240	48	50	5	5
長崎北陽台	普通	240	36	42	5	5
	理数	40	8	6		
	計	280	44	48		
佐世保南	普通	240	46	57	5	5
佐世保北	普通	240	24	41	5	5
佐世保西	普通	240	48	69	5	5
島原	普通	200	30	19	5	5
	理数	40	8	11		
	計	240	38	30		
東早	普通	280	32	39	5	5
島原	普通	240	48	42	5	5
早東	普通	80	16	4	5	5
村	普通	240	48	47	5	5
	数理探究	40	8	11		
	家政	40	16	16		
	計	320	72	74		
館	普通	120	18	11	5	5
	理数	40	12	3		

2月5日(火)に「公立高校推薦入試」が終了し、先月から続いた高校入試の前半戦が終了しました。

前半戦は、国・公・私立高校(高専)の推薦入試と私立高校の一般入試が行われ、今年度の3年生は、15校18学科に挑みました。

国立高専や私立高校の推薦入試で合格内定を手にした生徒、そして、私立高校を第1希望にしている一般入試で合格を取った生徒は、卒業後の進路も決定し、次の目標に向かって日々の学習をスタートさせました。

一方、左の写真は、公立高校推薦入試の志願状況です。例えば、佐世保北高校は推薦定員24名に対して志願者が41名、佐世保西高校では推薦定員48名に対して志願者が69名など受検生には厳しい状況になっています。推薦入試は「**三年間の教育活動の成果**」と「**面接試験の結果**」で合格が決まります。

2月12日(火)までに中学校に届きます。もうしばらくハラハラドキドキの日々が続きます。ただ、推薦入試で合格を逃しても、まだ3月の一般入試でチャレンジできます。気持ちを切らすことなく、最後まで粘り強く頑張ることが夢の実現には何より大切です。

高校の校長先生方と話をすると、高校が求める生徒として「**学力**」と「**集団生活のルールとマナー**」をよく口にされます。高校は義務教育ではありませんので、進学に際しては有意義な高校三年間を過ごして次の進路につないでいこうとする強い意志と、目的意識が必要です。そのためには、中学校での一日一日の生活が重要になってきます。気持ちのいい挨拶・清潔感のある服装・思いやりある言動、そして粘り強く学び続ける姿勢。入試を突破するためだけではなく、将来の社会生活にも欠かせない素養です。来週からは後期期末テストも始まります。この結果を受けて、各教科の年間評価の作業に入ります。万全の準備で臨んでほしいと思います。

◎ 「暴追タオル」の贈呈式！

2月6日(水)昼休み、校長室で「暴力追放タオル」の贈呈式が行われました。これは、県暴力追放運動推進センターが行っている事業で、卒業を間近にひかえた3年生に、社会の暴力追放運動への意識を高めてもらうために毎年行われているものです。

当日は相浦地区会長の山下様と相浦警察署の方々が来られ、山下様より3年生の旧生徒会長と副会長に「暴追タオル」と「ファイル」が贈呈されました。

残念ながら、毎日の新聞に悲惨な事件が報道されない日はありません。まもなく巣立っていく3年生には社会から暴力をなくしていくという意識を持ち、被害者にも加害者にもならないよう祈りたいと思います。

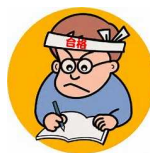


* 後期期末テスト時間割 *

	2/12(火)			2/13(水)			2/14(木)	
	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年
1	音楽	国語	社会	保体	保体	数学	技家	数学
2	理科	英語	英語	社会	理科	国語	国語	音楽
3	英語	技家	理科	数学	社会	保体	授業	授業
4	授業	授業	授業	授業	授業	授業	授業	授業
5	授業	授業	授業	授業	授業	授業	授業	授業
6	授業	授業	授業				授業	授業

後期期末テストは、1・2年生は8教科、3年生は6教科で実施します。そのために3年生は12日・13日の2日間のみの実施となります。

「**やればできる**」ではなく、
「**やらなきゃできない**」のです。



◇ 最高の子育て ◇

- 他の子どもと比べない。
- 子どもの持ち味を大切にする。
- できたことは認め、できないことは一緒に手立てを考える。
- 何かができるようになるよう努力を大切にして、一緒に「ヤッター感」を共有する。

特別支援教育講演会での講師の先生の言葉です。わが子の子育てを反省しました。